

土砂防だより

NO.
134
2001.7.15



新緑の富士と宝永火口（裾野市水ヶ塚）

静岡県支部通常総会	2
土砂災害防止月間活動	4
土砂災害防止法の施行	9
わがまちの砂防	10
砂防関係の主な行事	12

～新役員決まる～
特集 第56回全国治水砂防協会
 静岡県支部総会

～住民や砂防ボランティアとの協働～
H13土砂災害防止月間活動



全国治水砂防協会静岡県支部

静岡県支部通常総会を開催

●新役員、13年度事業計画決まる●

全国治水砂防協会静岡県支部の平成13年度(第56回)通常総会が、6月8日に静岡市内の中島屋ホテルで開催されました。

総会は、副支部長の渡辺紀富士宮市長の挨拶にはじまり、伊澤透国土交通省河川局砂防部砂防管理室長、大久保駿全国治水砂防協会理事長、柴順三郎静岡県副知事、伊東伊佐美静岡県議会議長の御祝辞をいただきました。

この後、議案の審議が行われ、平成12年度事業報告・収支決算報告、平成13年度事業計画案・収支予算案等が承認されました。続いて役員改選が行われ、H13～14年度の新役員が承認されました。新役員は、右ページのとおりです。

総会終了後、伊澤室長から「土砂災害防止法における市町村の役割」について、また、静岡大学農学部土屋智教授から「台湾地震の土砂災害」について講演をいただきました。



静岡県支部通常総会



伊澤室長による講演

〈平成13年度事業計画の概要〉

1 砂防関係事業の周知・啓発・普及

- (1)国・県の実施する事業への協力
- (2)会員による先進地等視察研修の実施
 - 台湾地震の土砂災害視察
 - 2001日韓文化交流会への協力
- (3)砂防関係担当職員に対する研修会の開催
 - 市町村等砂防担当職員研修会の開催他
- (4)他機関の実施する講習会等への参加

2 砂防事業等の促進要望の実施

3 「砂防だより」や砂防関係図書の発行

4 全国治水砂防協会等への協力

の4項目を主要事業として計画しております。

全国治水砂防協会通常総会開催される

～斉藤斗志二衆議院議員本部理事に就任～

社団法人全国治水砂防協会の平成13年度(第64回)通常総会が、5月23日に東京都千代田区の砂防会館で開催されました。

当日は、斉藤斗志二衆議院議員、山下善彦参議院議員をはじめ多くの国会議員が来賓として出席されました。当支部からは、副支部長の渡辺紀富士宮市長をはじめ23名の会員にご出席をいただきました。

議事では、平成12年度事業報告・収支決算報告、平成13年度事業計画・収支予算が承認されました。また、役員改選により、本県5区選出の斉藤斗志二衆議院議員が本部理事に、また斉藤滋与史静岡県支部長、原田英之副支部長(袋井市長)が本部評議員に選出されました。



通常総会

平成13年度 全国治水砂防協会静岡県支部役員の顔ぶれ

役職名	公職名	氏名
支部長	元建設大臣 前静岡県知事	斉藤 滋与史
顧問	静岡県土木部長	山口 修
副支部長	富士宮市長	渡辺 紀
//	袋井市長	原田 英之
会計監査役	河津町長	櫻井 泰次
//	春野町長	伊藤 晋一郎
委員	静岡市長	小嶋 善吉
//	三島市長	小池 政臣
//	伊東市長	鈴木 藤一郎
//	島田市長	桜井 勝郎
//	焼津市長	戸本 隆雄
//	小山町長	長田 央
//	相良町長	松下 嘉男
//	引佐町長	長山 芳正
常任幹事	河川砂防総室 砂防統括監	武田 晴夫



支部長
元建設大臣・前静岡県知事
斉藤 滋与史



顧問
静岡県土木部長
山口 修



副支部長
富士宮市長
渡辺 紀



副支部長
袋井市長
原田 英之



会計監査役
河津町長
櫻井 泰次



会計監査役
春野町長
伊藤 晋一郎



委員
静岡市長
小嶋 善吉



委員
三島市長
小池 政臣



委員
伊東市長
鈴木 藤一郎



委員
島田市長
桜井 勝郎



委員
焼津市長
戸本 隆雄



委員
小山町長
長田 央



委員
相良町長
松下 嘉男



委員
引佐町長
長山 芳正



常任幹事
河川砂防総室砂防統括監
武田 晴夫

故 豊田舜次前副支部長(前袋井市長) 全国治水砂防協会会長表彰される

社団法人全国治水砂防協会の平成13年度(第64回)通常総会が、5月23日に東京都千代田区の砂防会館で開催されました。

総会に引き続き行われた功労者表彰では、故豊田舜次前静岡県支部副支部長が会長表彰を授与され、豊田富士雄氏が代理受領されました。豊田氏は、平成元年から12年まで全国治水砂防協会静岡県支部副支部長、また平成11年から12年まで全国治水砂防協会評議員として、砂防関係事業の普及発展に尽力されました。ご冥福をお祈りします。



特集

平成13年度

6月1日～6月30日

土砂災害防止月間活動

毎年、各地で発生する土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害により、多くの人命、財産が失われています。静岡県では、国土交通省や県下各市町村と連携・協力して土砂災害に関する防災知識の普及と警戒避難体制の整備を促進するため、様々な行事を実施しました。

1

～県内49小中学校の応募による～

「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」の優秀作品を表彰

県内の小中学生の皆さんから「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」を募集したところ、平成12年度に49校から89作品の応募がありました。多数の応募ありがとうございました。

その作品のうち6作品を優秀と認め、6月17日(日)に「砂防フェスティバルしずおか」会場で表彰式を実施し、入賞者には国枝国土交通省静岡河川工事事務所長、鈴木県土木部技監より表彰状と記念品が授与されました。



賞	作品	学校名	学年	氏名
国土交通 事務次官賞	作文	富士市立元吉原中学校	2年	鷺坂 典子
	ポスター	藤枝市立高洲小学校	5年	吉野 賢譜
静岡県知事賞	ポスター	富士宮市立富士宮第二中学校	3年	加藤 絢子
静岡県土木部長賞	絵画	藤枝市立西益津小学校	3年	伊藤 良
全国治水砂防協会 静岡県支部長賞	ポスター	藤枝市立西益津中学校	3年	伊藤 傑
	ポスター	芝川町立柚野小学校	4年	渡邊 里紗

※学校・学年は応募当時のもの



静岡県知事賞
【ポスター】

加藤 絢子さん

(富士宮市立富士宮第二中学校3年)



静岡県土木部長賞
【絵画】

伊藤 良さん

(藤枝市立西益津小学校3年)



全国治水砂防協会
静岡県支部長賞
【ポスター】

伊藤 傑さん

(藤枝市立西益津中学校3年)



全国治水砂防協会
静岡県支部長賞
【ポスター】

渡邊 里紗さん

(芝川町立柚野小学校4年)

国土交通事務次官賞
【ポスター】

吉野 賢譜さん
〈藤枝市立高洲小学校5年〉



受賞者の声

元吉原中学校3年
鷺坂 典子さん

私は、土砂災害について、この作文を書くまであまり考えたことがありませんでした。道徳の授業がきっかけとなり、図書室で資料を借りて調べました。それは土砂災害の原因や恐ろしさを改めて知るとともに、災害を防ぐために多くの方が尽力してくださっていることを知ることにもつながりました。

藤枝市立高洲小学校6年
吉野 賢譜さん

テレビなどで、土砂くずれをしているところを見たことがある。家がたおれたり、人が生きうめになっているのはとても悲しい。日本は山が多いので、土砂災害を防止することは、大変大切であると思う。この災害を守っている人々の苦勞や努力に感謝したいと思う。

国土交通事務次官賞【作文】

「土砂災害を防ぐ」〈富士市立元吉原中学校2年〉鷺坂 典子さん

最近、テレビを見ていると、火山による崖崩れや、地割れ、大雨による土砂災害などの報道が後を絶ちません。私の住んでいる富士市にも、山があります。冬は雪をかぶっていて本当に美しい山、富士山です。けれど、その富士山も年々崩れてきているのです。よく知られているのは、大沢崩れです。大沢崩れは、今までに大雨や雪崩などによって大きく崩れ、たくさんの人命、財産を奪っています。今もまだ崩れ続けているのです。

大沢崩れだけでなく、土砂災害は、先進国日本においても深刻な悩みの一つです。なぜ日本はこんなに土砂災害が起りやすいのでしょうか。調べてみたところ、国土の七割以上が山地であり、地震が多く、風などに削られやすい弱い地層で覆われていることや、流れが急で曲がりくねった川が多いこと、また、それに加えて、自然に起きる土砂災害を広げているのは、人間だということもわかりました。その例の一つとして、1991年に噴火した長崎県の雲仙普賢岳のこんな話があります。

ある記者たちが、スクープをねらって、雲仙普賢岳の噴火写真を撮ろうと、立ち入り禁止の危険区域の中に入って、特撮の瞬間を待っていました。そこへ危険だという連絡が入り、消防団の方が何度も抗議に来たにもかかわらず、スクープに目がくらんで、記者たちは、注意を素直に聞かなかつたのです。そのとき大火砕流が起り、一人の記者は、相方の人によって車で逃げるのができたものの、もう一人の記者は、火砕流でそのまま死んでしまったのです。その上、抗議をしに来て下さっていた消防団の方も、犠牲になってしまったのです。

この話を道徳時に聞き、私は改めて火山の恐ろしさ、火砕流の怖さを思い知りました。同時に浅ましい人の欲が生む悲劇とむごさに、戦慄しました。その新聞記者たちが、消防団員の方の注意や抗議を素直にきいていれば、消防団員の方も、その記者も、亡くなることはなかったのですから。

自然災害における人の対応で思い出す授業がもう一つあります。それは、国語の教科書に出てきた「流れ橋」です。流れ橋という名前のこの橋は、コンクリートの橋などと違い、流されながら自然の猛威が収まるまで我慢する橋です。この橋は、流されることによって（最終的には回収されてすぐも

とに戻る構造になっているのですが）洪水や土砂災害を防ぐのです。この教材の授業を通して、先生は、「人間の英知を傾けて、自然に立ち向かうことも必要だけれど、自然に畏敬の念をもって生活し、その力を生かすことも大切だね。」とおっしゃいました。私は、土砂災害を最小限に食い止めるヒントが、そこにあるように思いました。

私達人間の力が、遠く及ばない大きな「自然の力」。崖崩れや火山の噴火などの土砂災害が、今までどれほど貴重な財産や命を奪ってきたことでしょうか。もちろん、人間も手をこまねいていたわけではありません。被害を減少させるための対策が、私の調べた資料の中にもたくさんありました。地滑りの動きを抑える対策や、雪崩の発生を防ぐ柵を造る雪崩対策、崖崩れ災害を防ぐための対策、土石流などをうけとめて、ためた土砂を少しずつ流す砂防ダムなどです。砂防の仕事は、砂防ダムを造り、川の流れを直し、荒れた山に木を植え、崖が崩れないようにその表面に工事を施したりする仕事です。これは、国や県でよく用いられている対策だということも、わかりました。このように、土砂災害から人命や財産を守るためにたくさんの所で対策が立てられています。

けれど災害が減らないのはなぜでしょう。私は、普段の心掛けが関係するのではないかと思います。私たちは普段あまり災害が起きたときのことを考えていることがありません。したがっていざというときに必要な物も用意できていないことも、多いのではないかと思います。これでは、どんなに国や県が対策をたてても無に等しくなってしまう。いつ起こるかわからない災害だからこそ、いつ起きても混乱することのないように、準備しておかなければいけないと思います。また、自分の住んでいる地域の地形、環境、特色などを理解しておくことも、大災害の広がり防ぐ方法の一つだと思います。土砂災害の起きやすい地域に住んでいる人は普段から天気予報などの情報に耳を傾け、雲仙普賢岳での記者の行動を逆に教訓とし、流れ橋の姿勢に学び、少ない被害ですむよう考えなければなりません。

私達が生きていく上で、自然災害や土砂災害はつきものです。自然とうまくつき合っていく英知と日頃の備えこそ、土砂災害を防ぐ土台だと私は思います。

2

急傾斜地パトロールの協働実施

～住民と砂防ボランティアの参加による～

急傾斜地崩壊危険区域として指定された区域は、県下に892箇所あります。県では、6月1日から28日までの間に土木事務所、行政センター、市町村、消防署及び警察署が、地域住民や砂防ボランティアと協働作業で、延べ1,017人を動員して、崩壊防止施設の異常や斜面の崩壊・亀裂の有無などの防災点検を実施しました。また、4月3日に発生した静岡県中部の地震による施設・法面への影響調査も併せて実施しました。

この結果、県内数カ所で施設の損傷や小規模の崩壊が確認されたため、早急に改善措置をとることにしました。なお、静岡県中部の地震による施設や法面への目立った影響はありませんでした。

◆急傾斜地パトロールに参加して

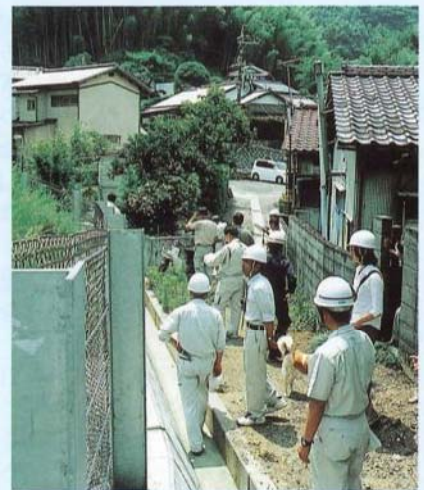
静岡県砂防ボランティア協会会員 高山 勉

この日は曇天で蒸し暑い一日でしたが、昔の砂防調査に思いを馳せながら、地図・野帳などをリュックサックにつめて、登山靴に身を固め、調査をして参りました。幸い、構造物などに特別大きな異常は無く、初期の目的が達せられたのは何よりでよい経験をさせて頂きました。

いろいろ感じたことも有りますが、特にこの時思い出したのは、静岡県の生んだ偉大な土木技術者「青山 士」先生が、わが国砂防学の泰斗「赤木正雄」先生に出した手紙の一文でした。

『万象に天意を覚える者は幸いなり。人の作りしものは破れざるはなし。気を付けて、気を付けて。』人の造りたるものは維持修理を必要とします。(原文抜粋)

どんな立派な構造物に対しても当てはまる言葉だと思いますが、特に急傾斜地構造物は直下に多くの人家を控えているので、維持管理が大切で、常日頃調査監視の目を傾けていることが大事だと痛感いたしました。



静岡市 昭府町光明坂急傾斜地をパトロールする砂防ボランティア

3

国・県・市の共催

「砂防フェスティバルしずおか」開催

～県民約5,000人が訪れる～

土砂災害の恐ろしさや砂防事業の役割を県民の皆さんに知っていただくために、6月17日(日)、静岡市の青葉公園で「砂防フェスティバルしずおか」を開催しました。

国土交通省静岡河川工事事務所、沼津工事事務所、富士砂防工事事務所、静岡県のパネルや模型のほかに、今年から新たに参加した静岡市の展示も加わり、より一層盛況なものとなりました。

また会場では、クイズラリー、土砂災害に関する絵画・ポスターの展示、土石流実験のほか、SBSラジオの公開生放送もあり、普段、砂防に接することの少ない県民の方々にも土砂災害に関心を持っていただきました。



クイズラリーの答はどこかな？

4

【テーマ】“備えあれば患いなし”

「土砂災害防止推進の集い」全国大会開かれる

平成13年度土砂災害防止推進の集い全国大会が6月7日に、全国から約1,500人が参加して、倉吉市の「鳥取県立倉吉未来中心」で開催されました。

今年は、「備えあれば患い無し—21世紀の土砂災害と危機管理—」をテーマとし、新世紀の安全で潤いのある暮らしを支えていくための砂防の可能性や、行政と住民がこれから担っていくべき役割について考えることを目的として行われました。

また、「備えあれば患い無し」をテーマとして行われたトークショーでは、集中豪雨・地震・火山活動等により益々多様化かつ激化している土砂災害への対処方法などについて幅広い議論が行われました。

また、「砂防ボランティア全国をつどい」「砂防関係工事現場代理人の会総会」も同会場で開催され、静岡県砂防ボランティア協会からも2名が参加して、土砂災害を防ぐ様々な取り組みについての活動報告・情報交換が行われました。



全国大会

◆春野町の北野功夫さんが土砂災害防止功労者に

6月7日に鳥取県倉吉市で開催された平成13年度土砂災害防止推進の集い全国大会において、2個人と3団体が土砂災害防止功労者として国土交通大臣から表彰されました。

本県から北野功夫さん（春野町在住）が受賞されました。表彰式では、北野さんの功績について説明がされた後、青山俊樹国土交通省技監より表彰状と記念品が授与されました。

北野さんの受賞は、平成12年9月中旬に県中西部を襲った豪雨の際、道路の下斜面にクラックが発生しているのに気づき、地元、町に知らせるとともに、その後も自主的に現地の見回りをを行い、がけ崩れの未然防止に貢献したことによるものです。



表彰を受ける北野さん

5

土砂災害避難訓練の実施（静岡市口坂本地区）

～地域住民と行政（県・市）との協働による～

6月13日、静岡市口坂本地区で、土砂災害避難訓練が県、静岡市及び地元住民22名の参加により行われました。

この訓練は、土石流の発生を想定し、同報無線や戸別受信機による避難情報の伝達と避難所への避難訓練を行いました。

同地区では平成10年4月と同年7月及び平成12年9月にも土石流が発生しており、土砂災害防止への地元住民の関心も非常に高く、訓練後は地域の孤立化防止対策などについて活発な意見交換が行われました。



避難所での住民との意見交換会

平成13年度土砂災害防止啓発用品等の紹介コーナー



マスコット



湯呑み



入浴剤



ティッシュ

啓発グッズ

富士山直轄砂防30周年記念事業が全建賞受賞！

6月28日、東京都港区の「虎ノ門パストラル」で開催された平成13年度(社)全日本建設技術協会総会で「富士山直轄砂防30周年記念事業」が全建賞を受賞しました。

受賞した本事業は、富士山の直轄砂防事業が昭和44年に大沢川扇状地での工事に着手してから平成11年4月で満30年を迎えたのを期に、国土交通省富士砂防工事事務所、静岡県、富士山周辺市町が、平成11年度から12年度にかけて地元の人々や関係者の方々に分かりやすく、自主的参加のもとで、富士山の自然環境の保全や恵み、そして災害を共に考えた記念事業です。主な事業として、「富士山緑のゼミナール」、「ぐるっと歩こう360度」、「富士山火山防災シンポジウム・講習会」、シンポジウム「富士山の昨日・今日・明日」などの開催があり、多方面から評価・意見を頂く各種行事を実施したことが受賞につながりました。



全建賞表彰式

桃沢川砂防環境整備事業が21世紀の「人と建設技術賞」を受賞！

平成7～12年度に地方特定砂防環境整備事業で施工した桃沢川の「水と緑の杜公園」整備が全建賞の平成12年度21世紀の「人と建設技術賞」を受賞しました。

これは、砂防事業の実施に併せて、周辺の森林の整備まで視野に入れ、自然回復を図る取り組み、またその森づくり・溪流づくりやその後の維持管理に多くの住民が参加し大きな成果をあげたことが、住民の創造する公園整備として評価されたものです。



桃沢川(長泉町)
水と緑の杜公園



公園内のビオトープ

口坂本地すべり地で(社)応用地質学会が現場見学会を開催

5月18日(金)に、(社)応用地質学会の現場見学会が口坂本地すべり地で行われました。今回は「斜面崩壊と対策」をテーマとして大谷崩れや口坂本地すべりを見学したものです。メンバーは、いずれも地質の専門家集団であり、コア観察や岩盤状況の確認を熱心に行っていました。



現場見学会

富士山ハザードマップ作成協議会が発足

7月11日、東京都内で第1回ハザードマップ作成協議会が開催されました。富士山の直下では、昨年秋以来低周波地震が多発するなど、火山活動の活発化が懸念され、また、富士山は国内の他の火山に比べ山体が大きく、噴火時の影響も広範囲に及ぶため、砂防事業も含めた広域的な防災対策が必要であること等から、国(国土交通省、気象庁、内閣府)、静岡県、隣接県及び代表市町村が連携して、平成14年度末の富士山火山ハザードマップ作成をめざし、作成に係わる協議会を設立したものです。本県からも柴副知事他関係者が出席しました。

土砂災害防止法の基本指針告示される

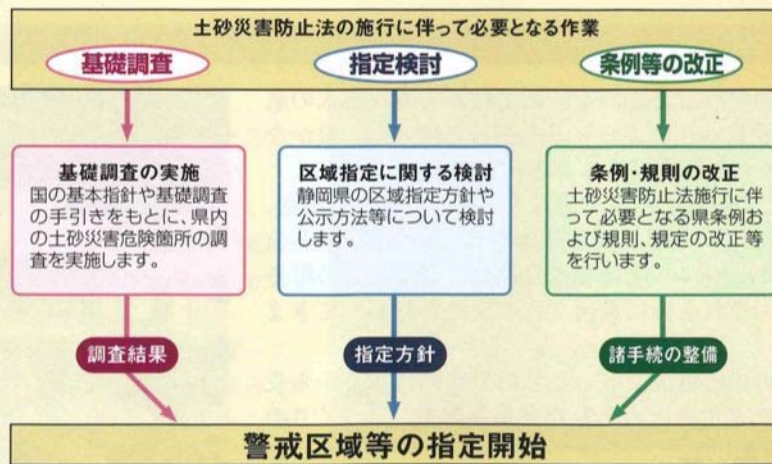
国土交通省は土砂災害防止法が施行されたことを受け、7月9日「土砂災害防止対策基本指針」を告示しました。

【基本指針の概要】

- 1 土砂災害防止対策に関する基本的事項
 - 基本指針の位置付け
 - 行政の「知らせる努力」と住民の「知る努力」とが相乗的に働く社会システムの構築
- 2 基礎調査の実施についての指針
 - 自然的・社会的状況を総合的に勘案した計画的な調査の実施
 - 土地の自然的・社会的状況に関する調査
- 3 土砂災害警戒区域等の指定についての指針
 - 想定される土砂災害は技術的に想定が可能な表層崩壊とし、過去の土砂災害の実態、住宅の多寡、開発の進展等を勘案して指定することが望ましい
- 4 土砂災害特別警戒区域内の規制についての指針
 - 建築物の移転等の勧告
 - 移転が円滑に行われるために必要な資金の確保、融通、斡旋に努める

静岡県では、基本指針に基づき、本年度から基礎調査を実施し、順次、区域指定を行っていく予定です。

【静岡県の土砂災害防止法 指定までのフロー(予定)】



土砂災害防止法講習会 ～基礎調査要領の説明会～

6月18日、東京都千代田区の砂防会館別館にて「土砂災害防止法に関する講習会」が開催されました。講習会では伊澤砂防計画課砂防管理室長の土砂災害防止法の概要、警戒区域等の指定および制限行為などの説明の後、財砂防・地すべり技術センターより基礎調査の方法について基礎調査の手引きをもとに、参考例を紹介しながら解説がありました。

今回は都道府県の業務である基礎調査に関する講習会のため、全国の実務担当者が多数受講しました。



土砂災害防止法の概要を説明する伊澤砂防管理室長

10がまちの砂防

裾野市

裾野市 建設課長 清水信夫

裾野市は、北に霊峰富士を仰ぎ、東に箱根山、西に愛鷹山と三方を山に囲まれた自然豊かな町であり、今年4月には、広大な富士山の麓に、温泉を利用した「ヘルシーパーク裾野」がオープンしました。

泉質は、弱アルカリ性で、神経痛や筋肉痛・疲労回復など数多くの効用があり、流水プールや運動浴プール・ジャグジー・圧注浴などの施設も完備され、連日、多くの方々に健康増進やリハビリ、リクレーション等にご利用いただいております。(皆様方のご来場をお待ち致しております。)

当市では、昭和35年の、工場設置奨励条例の制定を機に、企業の進出が活発化し、昭和46年に市制を施行致しましたが、人口の急増とともに山麓に向かっての住宅開発や、山林経営の不振などから山の荒廃が進み、地域住民の砂防に対する関心も高まっております。また、富士山直下で昨年秋以来低周波地震が多発するなど、火山としての活動の活発化が懸念されているなか、8月5日に市独自で富士山噴火を想定した初の住民避難訓練を実施する予定です。

市としても、恵まれた自然を保護しながら土砂災害等から住民の生命と財産を守る砂防事業には、重点を置いているところでありますので、関係各位の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



「ヘルシーパークすその」



原入沢 砂防堰堤 (裾野市 深良)

岡部町

岡部町 建設課長 柴田愷男

緑連なる山間をぬって流れる朝比奈川の清流、志太の名山・高草山、そしてどこまでも澄みきった碧い空、豊かな自然が四季折々の表情を見せるまち、岡部町。

古くは、つたの細道から東海道五十三次の21番目の宿駅、そして国道1号バイパスや設置が計画されている第2東名自動車道のインターチェンジと重要な陸路は、昔からこの町を東西に横断し、それを軸に東西文化の交流が行われてきました。

本町は、この山と清流をもった独自の空間に古くから受け継がれてきた文化を土台とした産業振興や、人づくりの推進を行ってきました。



東海道岡部宿大旅館 柏屋
(国登録有形文化財)



〈町の花〉ウメ



岡部川水系赤目沢砂防堰堤 (岡部町岡部)

こうした町の良さをさらに光り輝かせ、安全・快適なまちづくりの為には、砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業などの防災対策は欠くことのできない重要な役割を担っており、今後も引き続き関係機関のご支援をいただき事業推進に努力してまいりたいと思っております。



菊川町

菊川町 建設課長 井指健一

粟ヶ岳の麓から流れ出する一級河川菊川の中流域、小笠平野の北部に広がる菊川町は、豊かな水田地帯として栄えていました。その後、明治維新を経て旧幕臣や川越の人々による牧之原茶園の開拓が始まると、急速に茶業地として発達しました。さらに戦後の大規模な開拓により、一帯は見事な茶園へと変貌を遂げ「お茶の町・菊川」が誕生したのです。

当町は、一級河川菊川とその支流流域を中心とした南西部の平地と、北東部の山林地域で成り立っていますが、特に山林地域では狭い平坦地を農地として使用し、住宅の多くは山を背負って連なり、斜面崩壊の危険に心を配りながら生活しております。



町北部の茶園（奥に見えるのが小笠原下最高峰の火剣山）



半済地区地すべり対策工事（菊川町 半済）

近年においても、平成10年9月の豪雨により、半済地区は、約30万㎡の土塊が地すべりをおこし、民家の納屋が押しつぶされ、7世帯に避難勧告を発令することとなりました。

住民の避難生活は9ヶ月半にも及ぶものとなりましたが、平成12年3月には関係各機関のご尽力により、対策工事が完成いたしました。

このようなことから、町民の防災意識、特に砂防事業に対する関心は高く、町としても住民が安心して暮らせる環境整備のため、これからも事業推進に努めてまいりますので、今後とも、関係機関の皆様、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

天竜市

天竜市 土木課長 中尾初弘

天竜市は、赤石山脈の最南端静岡県西北部に位置し、浜松市から約1時間、平野部から山間部に至るところで山と川に育まれた“まち”であります。

面積が181.65平方キロ、その約83%が森林で占められています。標高は約37m～841mと高低差があり、市のほぼ中央部を南下する天竜川本川に中小河川が流れ込み、その僅かな丘陵地に集落が点在しております。

このような地形的条件から、過去には幾多の災害を蒙っておりますが、平成11年に、自然環境を活かし、市民が住みよい安全な生活環境を享受できるよう「川と緑に恵まれた森林都市における安全で豊かな斜面づくり」を基本理念とした



天竜ボート場と夢のかけ橋



横山町 急傾斜地（天竜市 横山）

わがまちの斜面整備構想を策定し、その実現のために基本事項を定めました。

天竜川の最下流にある船明ダム湖では、ボートの街づくりが進み、春の高校生の選抜漕艇大会を初め、多くの各種大会が行われ天竜の山川の豊かな自然を味わって戴いております。

自然と共生する中で、今後も、市民の皆様が「安心して生活できる」そして訪れる人たちが「安心して訪問できる」ように災害の防止に努め、まちづくりを進めてまいります。関係各位の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

静岡県発行 砂防関係冊子の 紹介



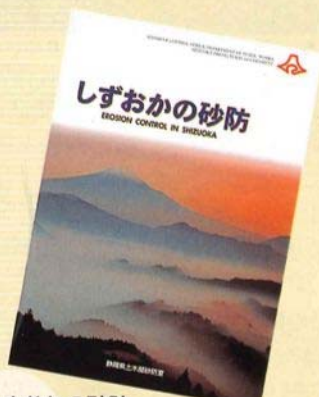
21世紀の砂防ビジョン
21世紀の静岡県の砂防が目指す6つの長期ビジョンを、具体的指標を用いて分かりやすく解説した小冊子
(平成13年6月発行)



土砂災害情報相互通報システム
平成12年度からスタートした土砂災害情報相互通報システム事業の概要を図表を中心に分かりやすく解説したパンフレット



静岡県溪流環境整備計画
静岡県の砂防事業を進める際の環境への基本姿勢を示したもので、県内を5ゾーンに分けた整備計画や事業の進め方を分かりやすく解説したパンフレット



しずおかの砂防
静岡県のソフト・ハード対策を含む土砂災害防止対策の全体像を説明した冊子
(最新改訂版) (平成13年3月発行)



静岡の地すべり
地すべり防止区域毎の概要・地すべり機構など半世紀にわたる静岡県の地すべり対策を記録した冊子 (平成13年3月発行)

平成13年 8-10月 砂防関係の 主な行事

- 8月 5日 裾野市富士山噴火住民避難訓練
- 8月 中旬 静岡県支部促進要望 (国土交通省・本県選出国会議員)
- 8月21日 県民の日 諸子沢砂防見学会
- 9月 1日 防災の日
- 9月 9日~11日 2001年日韓文化交流会・大韓民国砂防視察
- 10月24日~27日 市町村長等台湾地震土砂災害現地視察

募集 コーナー

■土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文の募集

対 象/小・中学生
応募期間/平成13年6月1日から平成13年9月30日まで
応 募 先/静岡県土木部河川砂防総室砂防室土砂災害対策スタッフ
TEL 054(221)3042

■～住民との協働による～ グリーンベルト・ボランティア募集

目 的/砂防溪流の流域全体を土砂災害を起こしにくい自然林への復元を目指す砂防樹林帯の育成 (竹林の伐採等)
場 所/清水市大内地区
時 期/8月～
問い合わせ先/静岡県土木部河川砂防総室砂防室砂防係
TEL 054(221)3043

■土砂災害防止写真コンテスト (第14回)

応募期間/平成14年3月31日まで
応 募 先/全国治水砂防協会
TEL 03(3261)8386

■～富士砂防工事事務所からのお知らせ～ 富士山への手紙・絵コンクール作品募集 (第6回)

対 象/手紙(小学生以上)・絵(どなたでも)
応募期間/平成13年7月1日～9月16日
応 募 先/富士宮市教育委員会学校教育課
富士山への手紙・絵コンクール事務局
TEL 0544(22)1185

編・集・後・記

6月の土砂災害防止月間に併せて行われた「急傾斜地パトロール」[砂防フェスティバルしずおか]に参加しました。土砂災害に関心を持っている地域住民の多さと関係者の土砂災害防止対策への取組みに対する熱意を再認識しました。
今後も、よりよい誌面づくりに取組んでまいりますので、ご愛読いただきますようお願いいたします。

砂防協会事務局員 宮城島朋代

表紙写真：新緑の富士と宝永火口

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております！
皆さんの御協力をお願い申し上げます。
詳しくは下記宛にお問い合わせ下さい。

第134号 発行日：平成13年7月15日
編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部
〒420-8601 静岡市追手町9番6号
静岡県土木部河川砂防総室砂防室内
TEL (054) 221-3042 FAX (054) 221-3564
E-mail : sabo@hq.pref.shizuoka.jp



古紙配合率80%再生紙を使用しています